

〈中世〉

住吉は南北朝時代、 戦場となった

今から660年ほど前の南北朝時代、瓜生野（遠里小野）に陣を張った楠木正行は住吉・天王寺にて北朝方と戦って勝利します。これを「住吉の役」とも「遠里小野の役」ともいいます。その後、南朝の後村上天皇はあちらこちら行幸しますが、住吉大社の南にあった津守氏の屋敷を行宮として崩御するまでの7年あまりここで過ごしました（住吉行宮）。住吉一帯は足利氏の幕府方の軍勢との大きな戦いの場になり、村々は荒れ果ててしまったと思われま

す。また、応仁の乱（応仁元（1467）年）から戦国時代にかけても住吉周辺はしばしば戦いの場となり、我孫子城や新堀城、寺岡砦などが登場します。それぞれ現在の我孫子・堀・西長居の集落がそれです。村や寺院の周囲には防御のための濠や土塁が設けられるようになります。現在も村の周囲には池の跡や水路として濠の跡が残されています。

このように南北朝時代には住吉は戦場となり、また天皇が長期滞在する南朝方の政治の中心でもありました。また、戦国時代は軍事戦略上、重要な地域として当地での覇権争いが繰り広げられたのです。

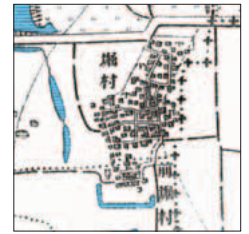


すみよしく
住吉区ゆかりの
キャラクター 9
くすのき まさつら
楠木正行

※行幸＝天皇が外出すること
※行宮＝天皇 行幸の時の仮の住居
※崩御＝天皇・太皇太后・皇太后・皇后の死去を敬つていう語



うえ (上) あびこ観音を取
り巻くように我孫子
城跡があった(中)
寺岡砦の場所に建つ
神須牟地神社(下)
極楽寺(P15)の石
燈籠。南北朝時代
に楠木正成が奉納し
たといわれる



集落が戦場となった当時の名残

明治時代の地図には各村の周囲に堀や池、水路が描かれています。すでになくなっているところが多いですが、今は道や公園になってその名残をとどめています。街道に通じる出入口付近の堀の内側には地藏堂があることが多く、その外側に堀があったことを知ることができます。



あびこ集落の堀跡。段の左側のグラウンドが池の跡

住吉行宮跡



我孫子城跡、新堀城跡、寺岡砦のあった場所

